

行政と協働のまちを目指す

市自治会連合会が市政懇談会を開催



日頃抱えている課題などについて話し合われた市政懇談会

11月25日、つがる市自治会連合会（白戸英行会長）主催による「市政懇談会」が松の館で開催され、自治会長ら50人が福島市長や市の幹部職員と協働のまちづくりに向けて意見を交わしました。

この懇談会は、市内の自治会等が相互の親睦と連携を図りながら、市政への理解を深めることを目的に開催され、今回で6回目となります。

はじめに白戸会長が「建設的な意見を交わし合い、有意義な懇談会にしましょう」とあいさつ。特別テーマとして福島市長が「つがる市地域活力創生総合戦略（案）」について説明しました。

その後、自治会等が日頃抱えている課題や要望などについて福島市長、各担当部長らと話し合い、より良い地域づくりにおけるそれぞれの役割について考えました。



各分野の担当部長が質問に回答



あいさつを述べる白戸会長



市長による特別講演「つがる市地域活力創生総合戦略(案)」



柴田町内会
工藤 寛樹 会長

防雪柵、融雪溝について

市道等への防雪柵の設置について設置基準や優先順位はあるのか。また、融雪溝についても同じく伺いたい。

(回答)

防雪柵や融雪溝は、市町村の裁量で設置箇所を決定し、国や県に整備にかかる補助金を要望しています。そこで、吹き溜まりの大きさや発生頻度とともに、交通量、バス路線・通学路であるか等を総合的に判断し、優先順位をつけています。しかし、防雪柵、融雪溝とも1メートルあたり10万円を超える高額な事業費となることから、なかなか整備が進まないのが現状です。確かな気象状況の把握と道路パトロールに努め、除雪回数を増やすなど、きめ細やかな除排雪体制を図ってまいりますのでご理解をお願いします。

消防団の指導・助言・訓練について

水害や地震、火災発生時に頼りになるのが消防署や地域の消防団だが、団員に対しての指導、助言、訓練は十分に行っているのか。また、迅速に団員が出動できる招集方法をとっているのか。

(回答)

消防団員は通常時、仕事をしているので、消防署員のように日々訓練を行うことは難しい状況にあります。しかし、年間行事である1月の出初式、6月の観閲式、8月の玉落し競技の開催前には、消防署員の技術的指導のもと、各分団で事前訓練を行い、団員の士気を鼓舞し、資質の向上に努めています。

また、現在、災害時の活動方針や安全管理を明記した「消防団安全管理マニュアル」を策定中であります。「火災編」、「地震編」に分けて内容をまとめており、来年4月までに全ての分団に配布する予定です。

団員の招集方法については、防災無線およびメール配信で、災害現場への迅速な出動をお願いしています。

緊急時の連絡について

火災等の場合には防災無線で市民に周知しているが、風向き等で聞こえない場合も多い。防災無線の設置場所が適切か検証してはどうか。

(回答)

合併当初、防災無線の整備にあたり、広域的に周知できるよう、場所、年間で最も多い風向き、スピーカーの向きなどを考慮して設置しました。しかし、近年の住宅構造の気密化などで家屋の防音性が向上したことや風向きの傾向が変化してきたことが、聞こえづらくなった要因と考えられます。再度、設置場所等について検証してまいります。どうしても聞こえない場合は戸別受信機を設置することと対応します。

※戸別受信機の使用にかかる電気料金は使用者負担となります。また、受信アンテナの取付工事(無料)が必要になる場合があります。



林自治会
竹内 雅彦 会長

その他主な質疑応答

短命県返上や健康寿命を延ばすため、中高年向けの運動施設などを設置したらどうか。

(回答)

来年度建設予定の(仮称)つがる市総合健診センターにおいて、平成29年度より、肥満者・特定健診の結果から判定値を超えた中高年の市民に対し、早期の生活指導・運動指導を行うなど、重症化予防対策を押し進めて行きます。センター内にトレーニングルームを整備し、有酸素運動と、トレーニングマシンによる筋肉運動を取り入れ、継続的に健康増進を図ります。

市内における街路灯の設置状況はどうか。また、設置基準を示していただきたい。

(回答)

現在、市内での設置数は8700箇所です。自治会等から要望のあった全ての箇所に取り付けております。設置基準は明確に定めていませんが、概ね①電柱がある②民家があり、通行がある③通学路である、に該当した場合、要望順に設置しています。



表彰を受ける佐々木さん(右)

佐々木さんが田中稔賞受賞

柏地区の佐々木直光さんが、本県稲作の発展に貢献した個人や団体に贈られる今年度の「田中稔賞」を受賞しました。

昭和45年の就農時、約2.5畝だった水田は、機械化の導入などで現在は約30畝までに拡大。寒冷地稲作技術を守りながら、省力・低コスト化を取り入れた生産を実践し、主力品種の「つがるロマン」と「まっしぐら」は、平成23年以降、4年連続で一等米比率100%を記録しています。また、市農業士会や市良食味米生産研究会では、地域農業のけん引役として活動されています。12月15日に行われた贈呈式で佐々木さんは「若手が農業の良さと将来の希望を感じて経営できるよう支援したい」と今後の抱負を話していました。

市民らの笑い声響く 三遊亭王楽さん招く

11月29日、市自治会連合会(白戸英行会長)主催の自治会交流事業「三遊亭王楽落語会」が松の館で開催されました。

事業は、市合併10周年記念として「安心・安全地域を笑顔に」をテーマに行われました。王楽さんは五代目三遊亭圓楽さんの最後の弟子として直接師事を受け、伸びやかな感性と現代性が特徴で、この日は、「紙入れ」と「井戸の茶碗」の演目を軽妙な口調と豊かな表情で演じ、会場に訪れた約350人の観客は笑顔に包まれていました。

また、各地区からの参加者によるリンゴとコメの品種当てゲームや地元特産品の詰め合わせが当たるお楽しみ抽選会で楽しい一日を過ごしました。



「紙入れ」などの演目を披露した王楽さん



舞台あいさつに出席した(左から)栗子さん、椿さん、横山さん

映画で市の魅力発信 市民映画祭開催

12月5日、シネマヴィレッジ8イオン柏で「つがる市民映画祭」が開催され、市の合併10周年を記念して制作された短編映画3作が上映されました。映画祭はつがる市地域づくりプロジェクト(鈴木大樹実行委員長)が主催。3作とも木造高校や高山稲荷神社など市内を舞台とした恋愛物語で、会場に詰めかけた市民ら約160人の感動を誘っていました。舞台あいさつには「ふりむくな」に出演した本県出身のAKB48メンバー・横山結衣さんのほか、「つがるちゃんは恋敵」から青森放送アナウンサー・栗子英里さん、「うつるもの」から女優・椿弓里奈さんが出席し、完成を祝いました。映画は1月からインターネットの動画サイトで視聴できます。

心身共に生きがいを 健康づくり講座開催

「がんと共に生きる」をテーマにした健康づくり講座が11月18日、松の館で開催され、約130人の市民らが健康意識を高めました。講座では、弘前大学大学院医学研究科腫瘍内科学講座の佐藤温教授が講師として登壇。佐藤教授は「青森は自然にあふれ、豊かな社会が実現できる。生きる幸せを実感しながら、命を大切に育んでいける社会をつくりましょう」と参加者に呼び掛けていました。

市では、心身共に健康で生きがいを持って生活できる地域を目指し、健康づくり講座を毎年開催しています。次回は「高齢者のこころとうつを知る」をテーマとし、3月6日に松の館で開催する予定です。



講演する佐藤教授

交通安全に多大な貢献 佐野良子さんに県知事表彰

交通安全母の会連合会などで活動している佐野良子さん（木造）が、交通功労者として県知事表彰を受賞しました。

佐野さんは昭和54年から長年にわたり、各種交通安全運動への参加や企画立案を積極的に実施。つがる地区安全運転協会でも率先して啓発活動を行うほか、高齢者を事故から守るための反射材普及活動にも尽力しています。

11月10日、青森市で行われた交通安全県民大会において佐々木県副知事より表彰状が手渡されました。佐野さんは「日頃の活動の実践が評価され、感激に堪えません。受賞を契機に交通安全思想の普及に一層努力します」と受賞者を代表して謝辞を述べました。



謝辞を述べる佐野さん



診療所ロビーで行われたコンサート

市民診療所でクリスマスコンサート

12月11日、クリスマスコンサートが市民診療所ロビーで開かれ、診察に訪れた市民らがバンド演奏やトークなどを楽しみました。

これは、会計や診察を待つ利用者に音楽を楽しんでもらおうと、旧成人病センター時代から引き続き行われているもので、市民診療所での開催は2回目。ポスターや会場の飾りつけなどは全て職員が手作りで行っています。

この日は、看護師や職員で構成されたバンド「ズボンスターズ」が、サンタクロースの衣装で登場。お馴染みのクリスマスソングや津軽にちなんだ演歌を披露し、会場は和やかな雰囲気に包まれました。

餅つき大会で地域交流

12月、1年間の労をねぎらい、明るい新年を迎えようと市内各地で餅つき大会が開催されました。

館岡子供会（越後谷浩会長）では12月6日、館岡コミュニティ消防センターで餅つき大会を行い、地域の家族連れら約50人が交流を深めました。親子で力を合わせながら代わる代わるきねを振り、つき上がった餅はお汁粉やきな粉にまぶして振る舞われました。瑞穂小2年の野呂柚紀ちゃんは「緊張したけど上手に出来た」と満足そうに自分たちがついた餅の味を楽しんでいました。越後谷会長は「初めての試みだが盛り上がりよかった。地元縄文遺跡の世界遺産登録に向けて地域のつながりを大事にしたい」と話していました。



親子が力を合わせた餅つき大会



登山囃子で大しめ縄と三十三俵の奉納を祝いました

大しめ縄と三十三俵奉納

木造地区の木作町内会（白戸英行会長）が12月20日、三新田神社に大しめ縄と三十三俵を奉納しました。

同町内会の奉納は平成4年に復活して以来、今回で24回目。長さ約40m、重さ約300kgのしめ縄と三十三俵は、町内会の有志が15人がかりで作業を行い、五穀豊穡や交通安全などの願いを込めながら約1か月かけて完成しました。

この日は、しめ縄と俵を鳥居に取り付け、中央には干支の「申」を描いた絵を飾り、市登山囃子保存会の演奏で奉納を祝いました。白戸会長は「復活してから干支二回り目の節目を迎えることができた。作り手の後継者不足はあるものの、今後も何とか続けていきたい」と話していました。